



岡崎市立城北中学校 校長通信

校長室の窓から

～校訓 真面目・精一杯 自主・自律～

8号

令和6年3月7日

城北中学校長
山本 則夫

卒業生 161名の未来に幸あれ

【令和5年度 第62回卒業式 校長式辞より】

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。君たちと過ごしたのはたった1年でしたが、私は、廊下から君たちの授業の様子を見るのが好きでした。集中して授業に臨んでいる姿、先生がなにか面白いこと言ったのでしょうか、大笑いする姿、いつも目が合うとニコッと微笑んでくれる子もいました。私は、君たちと少しでも距離を縮めたくて、スズムシやザリガニを使った理科の授業をやらせてもらいました。本当に楽しかったです。



行事でも最高学年として、君たちは、立派に学校を引っ張ってくれました。運動会での「龍神の舞」 圧巻の演技に言葉を失いました。毎日汗だくになりながら練習に励んでいましたね。踊った後、「もうだめ～」と弱音を吐く子もいましたが、なぜかそんな君たちの表情はいつも笑顔でした。友と一緒に過ごす一瞬一瞬を楽しんでいるようにも見えました。

そして、本年度、最も話題になった行事は4年ぶりにかけ声を復活させた「暁天かけ足」ですね。「思い切り声を出せ。全責任は校長が取る。」と言ったものの正直、学区の方から苦情が殺到したらどうしようかと不安でいっぱいでした。しかし、終わってみれば、保護者、地域の方、城北中卒業生の方から「やっぱり暁天はいいねえ」「これからも続けてくださいね」「暁天は城北の誇りです」とたくさん嬉しい励ましの言葉をいただきました。コロナ禍でも、なくなることなく今日まで伝統をつなげてくださった城北中先輩の先生方、保護者、学区の皆様にご心から感謝しています。

さて、心も体も大きく成長した皆さんですが、決して、これまで一人で成長したわけではありません。15年前、君たちのお母さんは、命がけで君たちを産んでくれました。生まれたばかりの我が子を初めて抱きしめたとき、どれだけ嬉しかったことでしょうか。そして、たくさんの愛情をもらって、君たちはすくすくと成長しました。親にとって子供の成長ほど嬉しいことはありません。でも、たくさんの喜びと同じくらい、君たちの知らないところで、きっとたくさんの苦労もあったはずですよ。そんな家族の姿を思い起こしてください。

朝、なかなか起きられないとき 大きな声で起こしてくれました。風邪で熱が出たとき ずっとそばでつきそってくれました。忘れ物をしたとき そっと学校へ届けてくれこともありました。運動会や部活の大会で声をからして必死に応援してくれました。

(裏面へ続く→)

友達関係で悩んでいるとき、そばで優しく励ましてくれました。君たちのことを思って、時には本気で叱ってくれました。そのとき君たちは素直に「ごめんなさい」が言えましたか。

親は時として勝手です。もっと勉強しろ。いい成績を取れ。いい高校へ行け。高校へ行けば今度はいい大学へ行けと言います。そしていい会社に入ってたくさん給料もらっていい人と結婚しろと言うかもしれません。でも、そんな親も一旦、我が子が病気をしたり、怪我をしたり、心が傷ついているのを見ると、そんな願いはどこかへ飛んでしまいます。とにかくこの子が元気になってほしい。もう一度笑顔を見せてくれれば、他に何ものぞまない。本当に勝手です。でもそれが親心です。

私から君たちに城北中生として最後の宿題を出します。それは、今日までずっと君たちを支えてくれた大切な家族の方に素直に「ありがとう」の気持ちを口に出して伝えること。君たちにとって一番大切な人は一番近くにいます。

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。これまで、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき誠にありがとうございました。お子さんが生まれた日のことを思い出してみてください。小さな我が子を抱いた時、その小さな命に涙したことでしょう。ときには病気をしたり、怪我をしたり、命に関わるような大きな手術をしたお子さんもいると聞いております。でも、あんなに小さくて甘えん坊だった子が、今ではこんなに大きく立派に成長しました。

幼い頃は、学校のことや友達のことをいつも話してくれてたのに、中学生になって、ある時期から口数が減りました。元気のない我が子へ心配して声をかけても、返事は返ってきません。反抗期でしょうか？いいえ、違います。子供は自分の弱い姿を親に見せたくなかったのです。親に心配をかけまいと歯を食いしばって必死に耐えていたんです。そんな子供たちが今、立派に義務教育を終え、城北中学校を巣立とうとしています。

おそらく皆さんより私の方が年上だと思いますので、少し偉そうなことをいいますが、お許しください。これまで子育て本当にお疲れ様でした。そして、よく頑張りました。今日、家で、お子さんは、卒業証書を手し、少し照れながら感謝の言葉を言ってくれると思います。その後で、頑張ったお子さんをぎゅっと抱きしめてあげてください。それが私から保護者の皆様への宿題です。



さあ、卒業生の皆さん、いよいよ3年間の中学校生活のフィナーレが近づいてきました。さようならの向こうには、きっと明るい未来がまっています。皆さんの幸せを心からお祈りしています。

令和6年3月6日

岡崎市立城北中学校長

山本則夫